

Title	吐魯番出土文物研究会会報 第54号 : 特集・論著目録稿
Author(s)	
Citation	吐魯番出土文物研究会会報. 54 p.1-p.6
Issue Date	1991-02-01
oaire:version	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/78865
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

吐魯番出土文物研究会会報

1991年2月1日
吐魯番出土文物研究会

第54号

特集・論著目録稿

吐魯番出土文物関係論著目録 (稿)

— 1988年・中文篇 —

關 尾 史 郎 編

【は じ め に】

本目録は、昨年2月に発行した本誌第30号に掲載した「吐魯番出土文物関係論著目録 (稿) — 1987・中文篇 —」に続き、1988年に公表された中文の論著を収録している。編輯上の原則と形式はもとより、『新疆日報』に掲載されたものを対象から除外したこと、『中国敦煌吐魯番学会研究通訊』掲載分については、本誌第19号の片山章雄編「『中国敦煌吐魯番学会研究通訊』総目次」にゆづったこと、および新著紹介の特集号 (第12, 13, 36, 37, 45号) で紹介済のものには*印を付したことなど、いずれも第30号に準じているが、今回は純粹に1988年に公表されたものだけに限定し、1987年以前に公表されたもので、第30号までに収録できなかったものについては紙幅の都合上、掲載を見合わせることにした。これについては、発行年次が未詳のものとあわせて、あらためて次号に掲載する予定である。

なお掲載した論著の閲覧、ならびに蒐集に際しては、いつもながら、片山章雄氏をはじめとする本研究会のメンバーのほか、東京大学東洋文化研究所の池田温先生をはじめ多くの方々からご協力をいただいた。記して感謝の意を表したい。

I 總 記

- (1) 新疆維吾爾自治区文物普查弁公室・吐魯番地区文物普查隊「吐魯番地区文物普查資料」『新疆文物』1988年第3期 IV, 1~84

II 圖 録 (寫 真 図 版)

- (1) 呉山編『中国歴代裝飾紋様』第三冊 (三国、魏、晋、南北朝、隋、唐、五代、宋) 北京 人民美術出版社
- (2) 周汎・高春明『中国歴代婦女妝飾』三聯書店 (香港) 有限公司・上海 学林出版社
- (3) 中国美術全集編輯委員会編『中国美術全集』雕塑編第四冊 (隋唐雕塑) 北京 人民美術出版社
- (4) 中国歴史博物館編『図説中華五千年』香港 三聯書店 (香港) 有限公司・天津 天津人民美術出版社
- (5) 繆良雲編『中国歴代絲綢紋様』北京 紡織工業出版社

III 資 料 (文 書 墓 誌) / IV 調 査 報 告

V 概 說 研 究 綜 介

A 著 書

- (1) 王子雲『中国雕塑芸術史』北京 人民美術出版社
- (2) 王仲箎『隋唐五代史』上冊 上海 上海人民出版社·高等学校文科教材
- (3) 許自然編『中国黄土地地区歴代墓葬及考古基建鑽探』北京 地質出版社
- (4) 杭州大学古籍研究所·浙江省敦煌学研究会·中国敦煌吐魯番学会語言文学分会編『敦煌語言文学論文集』杭州 浙江古籍出版社
- (5) 高世瑜『唐代婦女』西安 三秦出版社·隋唐历史文化叢書
- (6) 史念海主編『唐史論叢』第一輯 西安 陝西人民出版社
- (7) 史念海主編『唐史論叢』第四輯 西安 三秦出版社
☆所収：盧開萬「貞觀以後唐政府在北方的限奴措施」(1983年)
- (8) *周偉洲編『吐谷渾史入門』西寧 青海人民出版社·中国民族史入門叢書
- (9) 周汎·高春明『中国古代服飾風俗』西安 陝西人民出版社·中国風俗叢書
- (10) 周祖謨『周祖謨語言文史論集』杭州 浙江人民出版社
☆所収：「記吐魯番出土急就篇注」(1983年)
- (11) 周峰編『中国古代服装参考資料』隋唐五代部分 北京 北京燕山出版社
- (12) 祝慈寿『中国古代工業史』北京 学林出版社
- (13) *齊陳駿·陸慶夫·郭鋒『五凉史略』蘭州 甘肅人民出版社·西北史研究叢書
- (14) 錢伯泉·王炳華編『通俗新疆史』烏魯木齊 新疆人民出版社
- (15) 蘇北海『西域歷史地理』烏魯木齊 新疆大学出版社
- (16) 宋家鈺『唐朝戶籍法与均田制研究』鄭州 中州古籍出版社
☆紹介：(梓文)「《唐朝戶籍法与均田制研究》一書出版」『中国史研究動態』1989年第4期
32
- (17) 戴爭『中国古代服飾簡史』北京 輕工業出版社
- (18) 譚英華『兩唐書食貨志校讀記』成都 四川大学出版社
- (19) 中国民族史学会編『中国民族關係史論集』西寧 青海人民出版社
☆所収：郭平梁「魏晉南北朝時期高昌地区的民族及其相互關係」(1988年)
- (20) 張經福編『中華国宝』芸術珍寶分冊 南京 江蘇少年儿童出版社
- (21) 任繼愈主編『中国仏教史』第三卷 北京 中国社会科学出版社
- (22) 樊樹志『中国封建土地關係發展史』北京 人民出版社
- (23) 楊泓『文明的軌跡—從考古發掘看中國文明的演進—』II 香港 中華書局(香港)有限公司·文明的探查叢書
- (24) 楊文衡·杜石然·陳美東·金秋鵬·廖育群編『中国科技史話』上冊 北京 中国科学技術出版社
- (25) 李敬洵『唐代四川經濟』成都 四川省社会科学院出版社·四川歷史叢書
- (26) 林幹『突厥史』呼和浩特 内蒙古人民出版社·中国古代北方民族史叢書
☆所収：「近六十年余(1919—1984)国内突厥史研究述評」(1985年)
- B 論文類
- (27) *王素「吐魯番所出武周時期吐谷渾歸朝文書史実考証」『文史』第29輯 161~170
- (28) 王素「唐写《論語鄭氏注》对策殘卷与唐代經義对策」『文物』1988年第2期 56~62
☆紹介：(田力)「經義对策有低級和高級兩種類型」『史学情報』1988年第4期 97
- (29) *王素「也論高昌“俗事天神”」『歷史研究』1988年第3期 110~118

- (30) 王素「《唐改元年月錄》跋」『考古與文物』1988年第3期 84~86
- (31) 王珍仁·劉宏堂「旅順博物館藏唐代絹畫」『美術研究』（中央美術學院學報）1988年第4期 78~79
- (32) 翁俊雄「唐代計帳制度探索」『北京師院學報』1988年第3期 64~74
- (33) 何直剛「“良妻解夢”解」『新疆文物』1988年第1期 51
- (34) *郭平梁「魏晉南北朝時期車師—高昌一帶的民族及其相互關係」『新疆文物』1988年第3期 99~114
☆再錄：「魏晉南北朝時期高昌地區的民族及其相互關係」V（19） 68~91
- (35) *吳震「吐魯番出土“租酒帳”中“姓”字名實辨」『文物』1988年第3期 57~61, 65
☆紹介：（炳文）「“租酒帳”中的“姓”為容器」『史學情報』1988年第4期 96~97
- (36) 吳震「唐《高耀墓志》補考」『新疆社會科學』1988年第4期 61~67
- (37) 侯燦「西域遺珍—高昌主客長史陰尚口造寺碑與李柏文書解說—」『新疆文物』1988年第1期 26~33
☆再錄：「高昌主客長史陰尚口造寺碑」侯燦『高昌樓蘭研究論集』烏魯木齊 新疆人民出版社 1990年 93~98
- (38) *侯燦「吐魯番晉—唐古墓出土隨葬衣物疏綜考」『新疆文物』1988年第4期 35~44
☆再錄：侯燦『高昌樓蘭研究論集』（前出） 165~180
- (39) *侯燦「晉至北朝前期高昌奉行年號証補」『南都學壇』1988年第4期 43~54
☆再錄：侯燦『高昌樓蘭研究論集』（前出） 126~144
- (40) 黃新亞「唐初徭役考辨」V（7） 240~255
- (41) 柴劍虹「讀敦煌寫卷《黃仕強傳》札記」中國敦煌吐魯番學會語言文學分會編『敦煌語言文學研究』北京 北京大學出版社 248~266
- (42) 蔡鴻生「唐代九姓胡貢品分析」『文史』第31輯 99~113
- (43) 朱英榮「龜茲文化與犍陀羅文化」『新疆大學學報』1988年第1期 15~25
- (44) 朱雷「《舜子變》、《前漢劉家太子傳》、《唐太宗入冥記》諸篇辨疑—讀《敦煌變文集》札記（三）—」『魏晉南北朝隋唐史資料』第9·10期 23~27, 22
- (45) 周偉洲「吐蕃與吐谷渾關係史述略」《藏族史論文集》編輯組編『藏族史論文集』成都 四川民族出版社 301~319
- (46) 徐慶全「關於《新唐書·食貨志》所載田令頒布年代」『北京師院學報』1988年第4期 73~77
- (47) *蔣禮鴻「《吐魯番出土文書》第一冊詞積」V（4） 32~42
- (48) 薛宗正「波斯薩珊王朝聯合吐火羅抗擊大食始末—兼論唐與大食中亞對峙形勢的演變—」『新疆社會科學』1988年第4期 65~77
- (49) *錢伯泉「高昌國郡縣城鎮的建置及其地望考實」『新疆大學學報』1988年第2期 34~41
- (50) 錢伯泉「《坎曼爾詩箋》新探」『文物』1988年第11期 91~95
- (51) 宋家鈺「唐、日民戶授田制度相異問題試析—均田制與班田制比較研究之一—」『晉陽學刊』1988年第6期 65~73
- (52) 孫繼民「吐魯番文書所見唐代三次行軍考」『武漢大學學報』1988年第1期 110~114
- (53) 孫繼民「唐西州張無倫及其相關文書」『魏晉南北朝隋唐史資料』第9·10期 83~91, 73
- (54) *段連勤「公元五世紀上半葉高昌歷史考微」『西北史地』1988年第4期 97~105
- (55) *張廣達「唐滅高昌國後的西州形勢」『東洋文化』第68號 69~107
- (56) 張鴻勳「從《孔子項託相問書》談敦煌文學的研究」V（4） 246~258

- (57) *張鴻儒「麹氏高昌的土地買賣和推行均田制的某些迹象」『河北大學學報』1988年第1期 171～179
- (58) 張國剛「關於唐代兵募制度的幾個問題」『南開學報』1988年第1期 40～49, 59
- (59) 張培瑜「吐魯番新出土的唐代寫本曆書」『考古與文物』1988年第4期 91～94, 37
- (60) 趙超「蓋蕃一家墓誌綜考」『文史』第29輯 151～159
- (61) 趙豐「唐宋前後長江中游地區紡織原料結構的變遷」中國唐史學會·湖北省社會科學院歷史研究所編『古代長江中游的經濟發展』武漢 武漢出版社 404～422
- (62) *陳國燦「對高昌國某寺全年月用帳的計量分析—兼析高昌國的租稅制度—」『魏晉南北朝隋唐史資料』第9·10期 4～12
- (63) *陳國燦「從葬儀看道教“天神”觀在高昌國的流行」『魏晉南北朝隋唐史資料』第9·10期 13～18, 12
- (64) *陳國燦「魏晉至隋唐河西胡人的聚居與火祆教」『西北民族研究』1988年第1期 198～209, 282
- (65) 陳良偉「試論西域冶鑄文明的起源」『新疆文物』1988年第1期 58～69
- (66) *程喜霖「烽鋪考」『鄭州大學學報』1988年第1期 68～73
☆再錄：程喜霖『漢唐烽堠制度研究』西安 三秦出版社 1990年 230～241
- (67) 程喜霖「從唐代過所文書所見通“西域”的中道」『敦煌研究』1988年第1期 58～67
☆介紹：(小丘)「絲路中道是通西域的主要幹道—關於過所文書研究的新成果—」『新疆文物』1988年第4期 119
- (68) *程喜霖「《唐開元二十一年(733)西州都督府勘給過所案卷》考釋—兼論請過所程序與勘驗過所—」(下)『魏晉南北朝隋唐史資料』第9·10期 74～82
- (69) 鄭欣「門閥地主的形成、特點、作用及其崩潰」歷史研究編輯部編『中國封建地主階級研究』北京 中國社會科學出版社·歷史研究叢書 216～244
- (70) *杜斗城·鄭炳林「高昌王國的民族和人口結構」『西北民族研究』1988年第1期 80～86, 282
- (71) 凍國棟「唐代民族貿易與管理雜考」『魏晉南北朝隋唐史資料』第9·10期 122～131, 120
- (72) 費省「唐代藝術家籍貫的地理分布」V(7) 109～146
- (73) 穆舜英「唐朝在西域的政制」『新疆文物』1988年第1期 52～57
- (74) 穆舜英「唐代的西域文化」『新疆文物』1988年第2期 97～102
- (75) 穆舜英「唐朝統治下的西域(摘要)」『西北民族研究』1988年第1期 76～79, 69
- (76) 楊際平「再談麹氏高昌與唐代西州“部田”的歷史淵源」『中國史研究』1988年第2期 23～33
- (77) *楊際平「唐代西州欠田、退田、給田諸文書非均田說—兼與日本學者西村元佑、西嶋定生先生商榷—」V(6) 198～244
- (78) 李曉路「唐財政史兩題平議」『中國社會經濟史研究』1988年第1期 93～94
- (79) 李鴻賓「唐代西州市場商品初考—兼論西州市場的三種職能—」『敦煌學輯刊』1988年第1·2期 44～52
- (80) 李正宇「唐宋時代敦煌縣河渠泉沢簡志(一)—附《唐宋時代敦煌縣諸鄉位置及渠系分布示意圖》—」『敦煌研究』1988年第4期 89～97
- (81) 李天石「唐代的官奴婢制度及其變化」『蘭州學刊』1988年第3期 76～84
- (82) 李文瀾「論唐代職田經營及官吏對自耕農的地租剝削」『江漢論壇』1988年第7期 65～70, 50
- (83) *劉漢東「從西涼戶籍殘卷談五涼時期的人口」『史學月刊』1988年第4期 32～34

- (84) 林超民「略論唐王朝對西域的管理」雲南大學歷史系編『史學論叢』第三輯 97～123

VI 動 向 目 録

A 著 書

- (1) 劉戈・黃咸陽編『西域史地論文資料索引』烏魯木齊 新疆人民出版社・中國邊境史地研究資料叢書
☆紹介：邢玉林「《西域史地論文資料索引》評介」『西北史地』1989年第2期 112～113

B 論文類

- (2) (夏史)「《敦煌吐魯番出土經濟文書研究》出版」『光明日報』1988年2月3日
(3) 葛增福「古道誘我行－訪日本敦煌吐魯番問題專家池田溫教授－」『光明日報』1988年12月7日
(4) 季羨林「對當前敦煌吐魯番學研究的一點想法」『文史知識』1988年第8期 3～4
(5) 新疆文物考古研究所資料室編(丘陵輯)「1986年新疆文物考古有關學科論文資料目錄索引」『新疆文物』1988年第1期 105～121, 1988年第2期 139～140
(6) 新疆文物考古研究所資料室編(丘陵輯)「1987年新疆文物考古論文索引」『新疆文物』1988年第4期 143～146
(7) 怡年「新起的吐魯番學」『中國文物報』1988年10月7日
(8) (陳)「日本米田賢次郎論吐魯番古代農業」『新疆社會科學』1988年第4期 46
(9) (田家信)「一九八七年文物工作概況」『新疆文物』1988年第4期 130～131
(10) (涂鈞勇)「大型中國博物館叢書《新疆維吾爾自治區博物館》一書出版」『新疆文物』1988年第1期 86～87
(11) 劉進寶「國際敦煌學研究的一次大檢閱－1988年北京國際敦煌吐魯番學術討論會綜述－」『蘭州學刊』1988年第5期 101～104, 95

VII 著 者 他

- (1) 蔣國泰・王靜玢編『中國旅遊交通指南』北京 中國旅遊出版社
(2) 宋士敬編『吐魯番／TURFAN』烏魯木齊 新疆攝影藝術出版社
(3) 張堯・謝天喜主編『今日吐魯番』烏魯木齊 新疆大學出版社
(4) 陳大俊主編『今日新疆』(3) 烏魯木齊 新疆人民出版社
(5) 楊建新・盧葦『絲綢之路』蘭州 甘肅人民出版社・絲路叢書
(6) 楊松柏主編『中國旅遊大全』長春 北方婦女兒童出版社
(7) 黎先耀主編『中國博物館指南』北京 中國旅遊出版社

(以上)

■ 案 内 ■

「ドイツ・トゥルファン探検隊西域美術展」が、4月2日(火)から5月12日(日)まで、ベルリン国立インド美術館・東京ドイツ文化センター・朝日新聞社ほかの主催により、東京国立博物館で開催されます。今世紀初頭にグリェンヴェーデルやル・コックによって中央アジアから将来された美術品が中心で、文字資料はほとんど含まれていないようですが、高昌故城や交河故城から将来された仏教美術の遺品が多数展示される予定です。

なおこの展覧は、5月25日(土)から7月7日(日)までは宮崎県総合博物館で、また7月23日(火)から9月8日(日)までは京都国立博物館でも開催が予定されてされています。

■ 紹 介 ■ 『北朝研究』 編輯部編『北朝研究』

一九八七年八月に山西省大同市で第一回全国北朝史学術討論会が開かれたのを機会に、平城北朝研究会が設立されたが、そこでの決定により発刊されたのが、この『北朝研究』である。一九八九年第一期（同年8月25日発行）が創刊号と銘打たれ（ただしなかには総第二期とあるので、これ以前に試刊号が発行されたと思われるが、未確認）、以後翌一九九〇年には上半年刊（6月25日発行）と、下半年刊（11月25日発行で、これには総第三期とある）の二冊が発行されており、当分の間このペースで発行されるらしい。

一九九〇年以降、主弁単位は大同雲崗企業集团股份有限公司となっており、編集部も平城北朝研究会同様大同市内にあるほか、印刷も大同で行なわれていて、これだけから判断すると、きわめて地方色豊かな出版物と思われるかもしれない。しかし頁を開いた途端、そのような思いは払拭される。なぜならば、例えば創刊号の執筆陣には周一良（周曇咏史詩中の北朝）、唐長孺（読李波小妹歌論北朝大族騎射之風）、そして韓国磐（北魏拓跋焘的經營西域）といった魏晉南北朝史研究の大家が並び、続刊にも朱大渭（北魏的国営畜牧經濟）、高敏（孫吳世襲領兵制度探討）、および黎虎（崔浩軍事思想述論）といった研究者が執筆しているからである。いずれも顧問を兼ねているが、顧問には何茲全、周谷城、周偉洲、宿白、黄烈、繆鉞などの名も見え、我が国でも著名な魏晉南北朝史研究者がほとんど網羅されている。したがって執筆陣はほぼ全国的な範囲に及んでいると言ってよく（もちろん、楊泓「北朝文化源流探討之一—司馬金龍墓出土遺物的再研究—」（創刊号）や、謝重光「中古仏教寺院為社会文化中心説」、凍国棟「北朝時期家庭規模結構及相關問題論述」（ともに上半年刊）といった若手で知名の研究者の論稿も掲載されている）、中国における北朝史研究の最新の成果と到達点を教えてくれる貴重な雑誌と評しても過言ではな

いだろう。雑誌の性格上、「五胡」期から北魏を中心とした北朝史に関する論稿が大部分だが、上掲の高敏氏のもののよう、三国呉の制度を論じたものもある。残念ながらトゥルファン出土文物を直接扱った論稿は見られず、トゥルファン出土文物の研究で知られる楊泓氏以下の若手研究者もここでは上掲のごときテーマに取り組んでいるが、北朝史との関連で中央アジア史に些かでも関わるものとしては、上掲の韓国磐氏のもののほか、符麗明「魏晉十六国北朝対河西的農業開発」、馬志冰「魏晉南北朝時期各地区間的貿易聯系及其交通路線」（ともに下半年刊）などがある。また張維訓「簡論東魏北齊与西魏北周的租調問題」（上半年刊）は西魏の計帳様文書に言及する。このうち韓国磐氏のものは、四三〇、四〇年代の北魏の中央アジアとの関係を、編纂史料から検討する。本紀と西域傳、さらには『冊府元龜』に対する史料批判も見られるが、やはり概観と言すべきだろう。また符麗明氏は徙民や流民による戸口数の増加と五凉政權の自立によって河西における農業開発が促進されとし、各政權の勸農政策や屯田の私田化とそれにとまなう大土地所有の出現、在地名族の固定化などの変化を整理する。

地方の困難な条件を克服して、この『北朝研究』が今後も豊かな成果を提供してくれることを祈念するものである。

(N)

事務局（連絡先） 〒182 東京都調布市国領町5-19-14

荒 川 正 晴 方

TEL 0424(81)4633

吐魯番出土文物研究会 (The Research Society for Turfan Relics)